



PATHO News

自治医科大学 病理診断部

No.25
2014. 11. 7



退職のごあいさつ

病理診断部を9月いっぱいまで退職した坂谷貴司准教授からのご挨拶です。坂谷先生は、10月から日本医科大学付属病院 病理診断科に臨床教授として赴任しました。



4年半にわたって勤めた自治医大を退職することになりました。カンファレンスや個々の症例、委員会やパーソナルな会話を通じて先生方、コメディカルや事務の方と接することで、多くの経験を積むことができました。いろいろとお世話になり、心より御礼申し上げます。

今後、自治医大で得られた経験を活かして、新たな職場で引き続き病理診断業務に携わっていきたいと思います。自治医科大学の益々のご発展を祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。

検体固定法間違い 改善報告

組織診断のためにホルマリン固定すべき検体を 誤って細胞診用アルコール固定液に入れてしまったインシデント事例について、病理診断部は医療安全対策部と共に次のように対策・改善させていただきました。各科のご協力、よろしくお願いいたします。

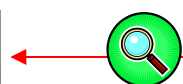
目的： ドーゼやビンの中の透明な液体が何であるか、誰が見てもわかるようにする

Before（右図）

机の上に置いてあった容器内の透明な液体が、細胞診用固定液（95%アルコール）なのか 組織固定用ホルマリン液なのか 明確に区別できなかった。



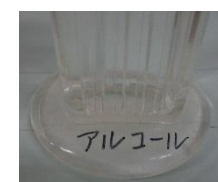
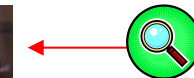
After 組織診用ホルマリン固定液（組織固定用ホルマリン液）



組織固定用ホルマリン液は、ホルマリンを容器に汲んだ際、シールを容器側面に貼り付ける。

After 細胞診用固定液（95%アルコール液）

細胞診用固定95%アルコール液は、外来・病棟各部署で、必ず**使用直前**に専用ビンからドーゼに注ぎ入れ、標本のスライドグラスを入れて使用する。



前もってドーゼに細胞診用固定液を入れておき、時間が経ってしまう場合は、必ずドーゼに「アルコール」とマジックペンで書き入れる。

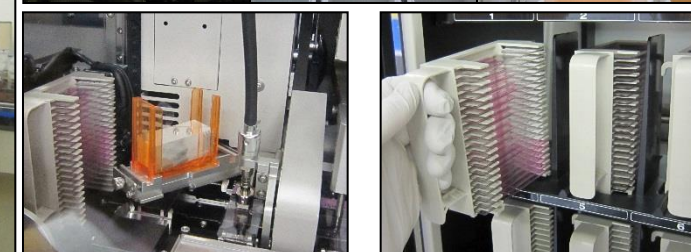
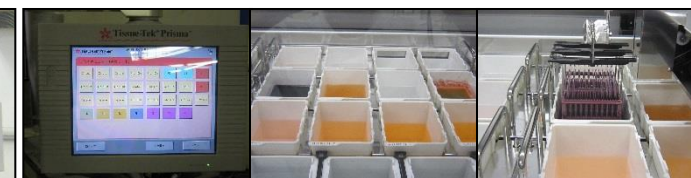
※専用ピンは各科で大切に保管し、細胞診用固定液がなくなったら、病理診断部・細胞診室に汲みに来て下さい。

自動染色装置と自動ガラス封入装置の導入

10月より、組織検査室に自動染色装置（ティッシュ・テック プリズマ）と自動ガラス封入装置（ティッシュ・テックグラス ジー2）が導入されました。

■自動染色装置は、スライドガラスに貼り付けられたパラフィン切片のヘマトキシリン・エオジン（HE）染色を自動に行う装置です。また、これに連結した自動ガラス封入装置は、スライドガラス上の病理組織標本に封入剤を吐出し、カバーガラスによる封入作業を自動で行う装置です。

■検体数の増加に伴い、脱パラフィン、脱水、水洗、染色、脱水、透徹、封入の一連の手作業を自動で行うことで、作業の効率化が図れるようになりました。



手前：自動ガラス封入装置
（ティッシュ・テックグラス ジー2）
奥：自動染色装置
（ティッシュ・テック プリズマ）

操作タッチパネル	染色液	脱水・染色処理
プレパレードの封入		封入完了

ニュースレター編集新チーム

メンバー4人のイニシャルから 編集新チームを **K-MY-S(ケーマイズ)** と命名しました。飛田野清美(Hidano Kiyomi)、田村 聖月(Tamura Mizuki)、松本 祐弥(Matsumoto Yuya)、伊藤 聡史(Ito Satoshi) 今後ともよろしくお願いします。

検体受付および剖検受付時間

8:30 ~ 17:15 （内線 2257）

注）土・日・祝祭日は剖検のみ受付（内線 2257 or PHS 18218）

ニュースレター PATHO News 病理診断部 No.25 2014. 11. 7

発行：福嶋敬宜(ふくしまのりよし)

編集：TEAM
K-MY-S (ケーマイズ)

飛田野清美(Hidano Kiyomi)

松本祐弥 (Matsumoto Yuya)

田村聖月(Tamura Mizuki)

伊藤聡史(Ito Satoshi)